

カルバペネム系・グリコペプチド系使用分析

1 カルバペネム系

1) 数値(注射)

指標	2024年度	2025年度	全国中央値(IQR)	2025年度の当院実績
AUD	0.131	0.042	0.640(0.31~1.25)	中央値の約1/15
DOT	0.225	0.069	1.270(0.66~2.26)	中央値の約1/18
AUD/DOT比	0.582	0.609	0.504(0.39~0.64)	IQR内(標準用量で投与している)

2) 分析

- ・ AUD、DOTは全国下限以下 → 広域抗菌薬への依存が極めて少ない。
- ・ AUD/DOT比0.609は全国IQR内 → MEPM1g×3/日(DDD=3g)の標準レジメンで投与している。
- ・ 実績から「温存しすぎて過少投与」は否定される。
「使う時はきちんと使う、使わなくて済むなら使わない」が両立されている。

2 グリコペプチド系

1) 数値(注射)

指標	2024年度	2025年度	全国中央値(IQR)	2025年度の当院実績
AUD	0.151	0.098	0.367(0.19~0.70)	中央値の約1/3.7
DOT	0.258	0.133	0.618(0.34~1.09)	中央値の約1/4.6
AUD/DOT比	0.585	0.737	0.593(0.49~0.72)	Q3上限超え(高用量TDM調整)

2) 分析

- ・ AUD、DOTは全国Q1未満 → MRSA感染症に対する適応の絞り込みができていない。
- ・ AUD/DOT比0.737は全国3をわずかに超える → 適応を絞った上で、高用量TDM調整が行われている。
適応の絞り込みとTDMベースの重症例カバーが同時に成立している。

3 総括

・ カルバペネム系

AUD(※1)は全国中央値の約1/15、DOT(※2)は約1/18となっている。

AUD/DOT比(※3)は、全国IQR(※4)内で過少投与ではない。

・ グリコペプチド系

AUDは全国中央値の約1/3.7、DOTは約1/4.6となっている。

AUD/DOT比は、全国Q3(※5)上限付近、TDM(※6)ベースの容量で重症例をカバーしている。

・ 「使用量の温存」と「重症例への適正用量投与」を両立している。

・ ASTチーム(※7)による日常的な処方レビュー、De-escalation(※8)介入、TDM運用の成果がでている。

※1 抗菌薬使用密度(Antimicrobial Use Density)

※2 抗菌薬使用日数(Days of Therapy)

※3 1日当たりの投与量が標準量に対して多いか少ないかを示す比率

※4 四分位範囲

※5 Q1(第1四分位数) : 小さい方から25%の位置にある値

Q2(第2四分位数) : 小さい方から50%の位置にある値

Q3(第3四分位数) : 小さい方から75%の位置にある値

※6 薬物血中濃度モニタリング

※7 抗菌薬適正使用支援チーム

※8 広域抗菌薬から狭域抗菌薬に変更(狭域化)